

プロジェクト名	限界集落をかかえる地域における医療介護福祉の包括的実装
代 表 者	島根大学医学部地域医療支援学講座・教授・佐野千晶
達成に資する SDGs 目標	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを
プロジェクト の意義、成果 及び波及効果	本プロジェクトは、島根県内において限界集落をかかえる地域をフィールドとし、本大学を研究拠点とし、医療介護福祉の在り方に関する Community-based research を展開するものである。医療介護福祉は、その地域の重要なインフラ・産業・ソーシャルキャピタルと考えられる。しかしながら、現行のへき地における医療介護福祉といった地域包括ケアシステムは、早いスピードの人口減少といった地域社会全体が大きくダウンサイジングする状況に対して、上手く対応・転換されていないと思われる。そこで本プロジェクトでは医療介護福祉の物的人的資源の乏しい地域で行われている取り組みからリサーチクエスチョンを得て、下記テーマの研究を行う。医療介護福祉がない地域に人々は住み続けようとは思わないため、「まちづくり」「地域存続」の一環として地域医療の研究を推進することは、県民の健康を守ることに繋がっていくものと思われる。また、限界集落を多く抱える島根県ならではの島根大学独自性を有する研究テーマである。 (1) 地域医療教育に関する研究 LIC (Longitudinal Integrated Clerkship：長期統合型臨床実習)、RaTs (Residents as Teachers：屋根瓦教育) に関する研究を計画している。この研究結果は地域における医学教育の質向上へ貢献する可能性がある。そして、若手医療人が実習などの参加型経験をトリガーにその地域への愛着を持ち、成長を感じてもらえる可能性がある。主に、質的手法を用いて解析する。アウトカムとして県内に大学卒業後に定着する医療人の増加へつながる (SDGs 3, 4, 11)。 (2) 世代、ジェンダー、職種、専門性による医療実践協働を阻む「壁」にはどういったものがあるのかについて研究を行う (SDGs 3, 5, 11)。 (3) 老年医学は学問としてはまだエビデンスの乏しい領域であり、高齢者の加齢的变化や個々の well-being に鑑みられた診療実践のためのエビデンスを蓄積する (SDGs 3, 8, 10, 11) いずれの研究結果も島根大学医学部ならびに大学院を基盤としての論文作成を計画し、本学の成果となる。そして論文として社会発信されれば、島根県が最後まで安心して暮らすための方策・施策へ応用される可能性が期待出来る。また、研究に携わった大学院生が、島根県の医療を自分事として捉え、島根県の地域医療へさまざまな形で継続的に貢献してくれる可能性がある。